

★神戸の催し物ご案内

8月

☆音楽

★ハンガリー少年少女合唱団
3日(金) 6時半 神戸文化大ホール A・二五〇〇円 B・二二〇〇円 C・一八〇〇円
★室川泰 大阪フィル
サマー・ポップス・ファイバー79



小柳ルミ子

12日(日) 3時 神戸文化大ホール 民音/会員 二五〇〇円 一般 三〇〇〇円
出演/宮川泰、小柳ルミ子、川島和子、大阪フィルほか
★沢田研二
14日(火) ①2時 ②6時 神戸文化大ホール
★杉田二郎



杉田二郎

15日(水) 6時半 神戸文化大ホール 前売/A・三〇〇〇円 B・二八〇〇円



パウロ・モーラ

★熱いサンバの嵐がやってくる!
この夏は、ブラジル音楽が神戸でも爆発しよう。遠くブラジルから総勢13名の豪華メンバーが来日、サンバのリズム、カーニバルの熱狂、フェーリジョンサウンドの波が吹き荒れるブラジリアン・カーニバル 8月30日(木) 6時半 神戸文化大ホール 二五〇〇円

★ビジュアル

24日(金) 6時 西宮球場 S・三〇〇〇円 A・二五〇〇円 B・二〇〇〇円
★ブラジリアンカーニバル79
30日(木) 6時半 神戸文化大ホール 民音/会員 二〇〇〇円 一般 二五〇〇円
出演/パウロ・モーラ 五重奏団 コンジュント・サンバカーニバル ナター・ルー・他

★演劇
★文化座「日本の教育1970」
ある夜間中学の記録
17日(金) 21日(火) 22日(水) 6時15分
18日(土) ①1時半 ②6時15分
19日(日) 1時半 神戸文化大ホール 神戸労働/一九〇〇円
出演/鈴木光枝、佐々木愛、鈴木昭生、川崎桂ほか
★子どもミュージカル
「アルプスの少女ハイジ」
24日(金) ①1時 ②3時半
24日(金) ①1時 ②3時半
県民小劇場 A・一〇〇〇円

★松竹新派特別公演
「紙屋治兵衛」四季の時
9月1日(土) 4時 2日(日) ①11時 ②4時 神戸国際会館 S・三八〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二三〇〇円 C・一五〇〇円
出演/中村扇雀、水谷良重、菅原謙次、波乃久里子ほか
△その他

★花柳勝十郎リサイタル
12日(日) 1時 神戸文化大ホール 二五〇〇円
★ビートルズ大全集

フィルムコンサート
16日(木) 11時 神戸文化大ホール 前売・一〇〇〇円 当日・一三〇〇円
★ジミー・ヘンドリックス
フィルムコンサート



ジミー・ヘンドリックス

18日(土) ①2時 ②4時 ③6時 神戸文化大ホール 前売・一三〇〇円 当日・一五〇〇円
★第四回神戸能楽教室第二日目
18日(土) 1時半 淡川神社能楽殿
★モスクワボリショイ舞台サーカス
25日(土) ①11時 ②3時 神戸国際会館 大人/S・三〇〇〇円 A・二五〇〇円 小人/S・二〇〇〇円 A・一五〇〇円



園生



米朝

25日(土) ①1時 ②5時半 26日(日) 1時 神戸文化大ホール 一階席・二五〇〇円 二階席・二〇〇〇円
出演/三遊亭園生、笑福亭松鶴、桂春団治、桂米朝、桂小文枝、古今亭志ん朝、柳家小三治ほか
★市民映画劇場
「キヨボラのある街」
25日(土) 2時 28日(火) 7時 30日(水) 6時半 神戸文化大ホール 四九九円

●愛読者招待席

神戸っ子読者を左記の催物にご招待(それぞれ10名様)

★ビートルズ大全集



フィルムコンサート
★原田真二
9月6日(水) 6時半 神戸文化大ホール
★五輪真弓
9月7日(金) 6時半 神戸文化大ホール
ご希望の方は葉書に住所・氏名・年令・職業を明記の上、神戸っ子編集室「ビートルズ(神戸)」「ピートルズ(姫路)」「ペンチャーズ」「原田真二」「五輪真弓」の係まで。

●愛読者優待席

神戸っ子読者に左記のスタージを割引優待致します

★ジャン・ピエール・ニンバル
持田洋 デュオコンサート
9月21日(金) 7時 神戸文化大ホール A・三〇〇〇円 B・二五〇〇円をそれぞれ割引
★山内鈴子ピアノリサイタル
10月9日(火) 7時 神戸文化大ホール
一五〇〇円を割引
ご希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集室・優待係(川崎)まで



動物園飼育日記 — 〈165〉 — 亀井一成



「ぞうさんの遺言」(朝日放送)への涙



私は泣いた。私は泣きながら、いい知れぬ悔恨と自責にかられていた。

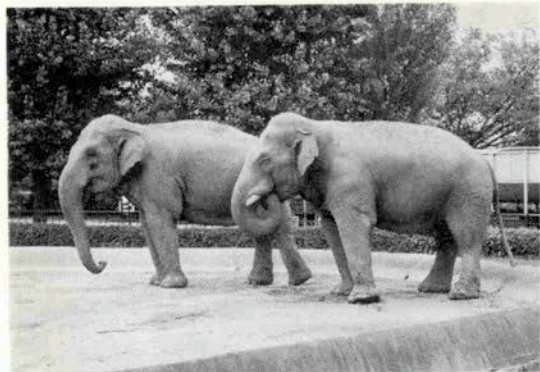
横たわった摩耶子はもう帰らない。

昭和二十五年三月、敗戦の子供たちに多くの夢を運んできたこの巨象に、私は手カギを打ちおろし、芸事を教えた。そして命がけで生きた摩耶子は僅か六年、その生涯はあまりにも短かった。いや、ひとときの安らぎさえもなかった重たい足首のクサリは、長い悲痛な日々の連続だったろう。

昭和三十一年八月二十三日、私は人間としてこれほどの悲しみを味わったのははじめてだった。線香を手向け通夜というより泣きあかした。

いままで自分がやってきたことは何だろう。もし、摩耶子に芸を仕込みさえしなければまだまだ生き、天寿を全うしたであろう。現に臆病で芸事がどうしてもできなかった諏訪子は元気に生きていてではないか。

巡業に出ることもなく、結核菌に感染することもなかった。それにひきかえ、氣丈夫な摩耶子は、手カギをふ



のんびりと暮す、スワ子<左>と太郎<右>

るう私にあまりにも忠実であった。体力を消耗しつくしてもその芸を守ろうとした。その報酬がこれだったのである。なんとしたことであるか。

「摩耶、かんにんし

ておくれ、おまえは動物園に来て何のために演芸なんか、せなあかんのや。どの動物も、みな、つれあいを貰い、赤ちゃんを生ませ、その家族生活をどうしてさせてくれなかつたんや、おまえは、そういうたんや、」
もういくら、大声で、いくら大きなほつたをぶつても、もう摩耶は冷たいまま、何も言ってくれなかつた。摩耶、もういっぺんでええから、眼を開けておくれ……。

【マヤ子の発病。飼育日記から】

三年め（昭和二十八年）の五月頃、尻の辺りに「できもの」大きく腫れ、治療したが全治に三週間かかった。この間、出張中止。

昭和二十八年九月新しい象舎完成、木造の旧舎よりスワ子と共に移る。その三週め、はしやぎすぎた、スワ子、外堀りに転落、引きあげに大騒動。興奮したマヤ子は助けようとす

る我々にスワ子を庇おうと立ち向ってきた。

同年十二月、マヤ発熱が続き、とき折り下痢。三週程で回復したと思えた。

昭和二十九年三月、再発、微熱続き、右前足首、関節炎跛行、全治に十カ月を要した。

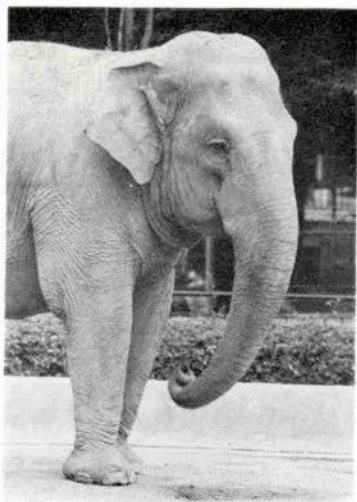
昭和三十年五月、また再発、両前足関節炎、と、下腹部に腫れを感じさせる。不活発、やせはじめる。微熱続く、色々投薬の結果下腹部の腫れ消失、しんどそうだが食欲はかなりある。

昭和三十年八月、出張を終え帰ったばかりのマヤ、相変わらずプールに入ったきり（微熱のためだった）、その折、突然の豪雨とカミナリにスワ子は部屋に逃げこんだ、



マヤ子の足はいつもこの鎖に……

ところがプールのマヤが、あがってこない。またも前足を痛めていたマヤ、プールによるけたままだった。すると部屋から再び走り出てきたスワ子が、プールのマヤに近づいたと思うと、力まかせに鼻づらでマヤのからだを押しあげ立ちあがらせ、次には後ろ向き尻で押しながらあれよあれよと思うままに部屋へ押しこんでやったではありませんか、そのうるわしい二頭のゾウさんの姿を終止見ていた、食堂のおばさんも私も、知らぬまに涙をこぼしていました。



スワ子、38才。今も元気です。

【マヤ子送別の言葉】

ストレプトマイシン50人分を毎日お尻に打ち続けた私には全くよくがまんしてくれたマヤ。最後の砂糖キビ三本を食べ終え、逝ったマヤに異常な態度を示すスワ子、何度も何度も大声をあげオリの中を走り回っていた。

象マヤ子儀

かねて病氣中のところ、昨夜十一時十分、遂に死去しました。生前、かわいがっていたいた皆様に心よりお礼申し上げます。

マヤ子よ、お前の背中ののって喜んだ子どもたち。お前と綱引きをして遊んだ子どもたちは今、中学校に行っている。お前は彼等がもっと大きくなるまで生きていたかったろう。お前は実に良く働いた。北陸へ山陰へ、あ

るいは四国へ、お前は到るところで子どもたちの歓迎を受けた。きっとお前はあの世でも大勢の子どもたちのいいお友達になることだろう。

苦しかったろう、痛かったろう、お前はいつまでもこの動物園の一隅で私達を見守ってくれていることだろう。

山本鎮郎園長（二代目）

急を知りかけつけて下さった石原助役、宮崎助役、それに山本吉之助初代園長の眼にも涙が光っていました。

私はこうした動物園の彼等が哀れな終身刑の身であること、もし、人間であれば親や兄弟一同が会したてでありましょう。象であった故でありましょうが、マヤ子の死に母さんも父さんもがやってこなかった。あたりまえのことでありましょうが二十七才の私の心には重たく残ったのです。（当時の日記より）

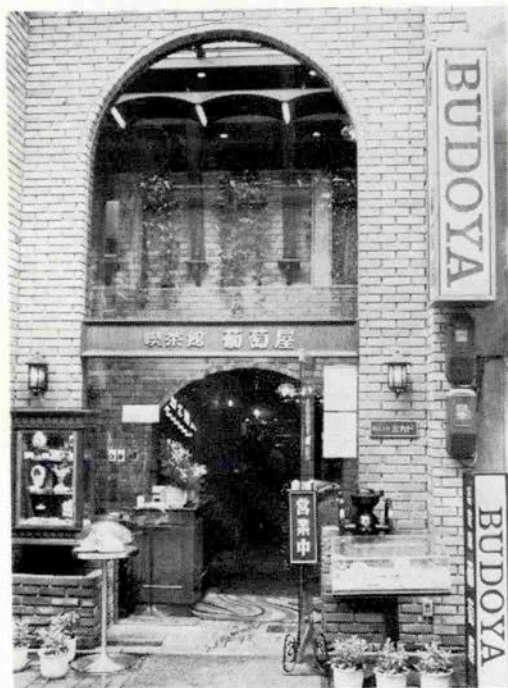
放映一時間三〇分のテレビドキュメント「ゾウさんの遺言」放送の翌日、感激のお礼が殺到しました。皆様心よりお礼申し上げます、きつとマヤ子も私の左横であの前足を折りひざまづいた姿で喜んでくれたにちがいません。かわいい児童二人がマヤ子のお墓にそつとバナナ二本を埋める姿、私は感涙を新たに目撃したのはその翌日のことであつた。

△王子動物園学芸員／写真も▽



マヤのお墓。安らかに眠っていることでしょう。

ゴージャスなムードと本物の味…
三宮センター街の憩いのオアシス



喫茶館
葡萄屋

三宮センター街3丁目(旧柳筋)
☎ (078) 391-9006
8:00AM-10:30PM

9月中旬姉妹店仏蘭西屋が市役所前にオープン

Hat dog



なんすい
軟水のCoffee
味、また格別。

営業時間 午前10時～翌午前2時



コーヒーハウス
ハットドッグ

バス停《中山手1丁目》南側角
☎ (078) 321-1689

宝塚―船坂谷―鳥居茶屋―一軒茶屋―阪急六甲

・六甲山100コース

水澄む船坂谷

島 京子△作家▽



石宝殿あたりにて筆者と息子さん

六甲山の表登山コースは、あれこれと登った経験があるが、裏から登るのは、はじめてのことで、この船坂谷溯行（そこう）がたのしみであった。

阪急宝塚駅の前から、バスで船坂橋までゆき、流れにそって登りはじめたのが九時四十五分。同行者は案内人の息子と、カメラ係の編集部M嬢である。

地図で見ると、この船坂川は、北へ下って鎌倉峡となり、なお流れて福知山線の道場駅の近くで武庫川と合流している。表六甲を流れ下る川とちがい、裏を流れるこの川の水は澄みきって、近ごろではめったに見られぬ美しさであり、鎌倉峡という渓谷美を下流で形成しているのもわりはないと思われた。

折から新緑の季節で、期待していたとおり、やわらかな緑が、明るい溪流の両側を埋め、うすくれない色のつじがみどりの間に見えかくれする。何もかもが澄んだ

気配につつまれていて清々しい。

ことしに入って一番気温が上った日であったせいか、まばゆい陽ざしを受けて渓谷をたどるうち、少し汗ばんでくる。

山登りは、谷の溯行が一番、ということをよく聞く。変化に富み、バランスの訓練になる、というのだが、川底の石を踏み、とびこえするうち、ふっと油断すると、足をすべらせたりする。判断のあまき、ずさんな態度など許されない。

出発点から、あとになり先になりして登っていた三人の若ものの姿が、ふと見えなくなる。

新しい堰堤が目の前に現われ、水が放流されていた。急坂のまき道を登り、ダムの上の河原に出たところで、テントが五つばかり設営され、子供たちがたのしそうに入入りしているのを見る。

新旧とりまぜて、五つの堰堤をこえ、川上の滝にたどりつく。すると、先刻の三人の若ものがはや到着していて、滝近くの砂地にリュックをおき、人じん、大根、米、つげものなどを並べて、飯盒炊さんの支度をはじめていた。

滝の左手の急坂を下ってくる人がいる。少し石にもたれて休み、下りの人たちがおりてしまつてから、われわれも水を渡つて、登りはじめる。

滝の上の水流に、桜の花びらが浮び、落花しはじめた桜の木をみつめる。思いがけぬ花見をよろこぶ。

やがて溪流の底が、巨大な御影石になってくる。その
大きさ、風趣に目をみはる思いである。

サワガニを見つけた。

M嬢が早速カメラに納める。

足もとに、どれほど小さなすみれを見たことだろう。

高山植物のシヨウジョウバカマも生きていた。

ときおり、オリエンテeringに参加しているらしい

若ものたちが、谷を下ってくるのに出会うのみで、登山

者の姿はほとんどない。

「鳥居茶屋まで、あと五〇〇メートル」

の標示を松の木の幹に見つけたときは、ほっとする。



サワガニも棲むほど水の澄んでいる船坂谷

この谷ではじめての目じるしであった。
涼しい木かげでの小休止を四度ほどくり返して、いよ
いよ山頂が近づいた気配を実感する。落葉の小道が折れ
曲ってつづき、車の走る音を耳にする。

鳥居茶屋の横に出て、M嬢は証拠写真をとりまくる。

出発からちょうど二時間であった。

「ハイキングコースというより、登山コースでしたね」

M嬢の感想である。キロ数にすると、四、五キロメー

トルほどで、大したことはないが、充実した確かな時間

をすごしたという感じが深い。

鳥居茶屋前の自動車道の向うに、石宝殿の鳥居が見え

る。石宝殿は六甲山の神像として知られている。

そこから西へ、一軒茶屋まではすぐだった。再建され

た一軒茶屋へは、はじめてのこと。大きな窓ガラスが見

ちがえるように屋

内を明るくしてい

る。それぞれのコ

ースをたどって六

甲にやってきた家

族づれやグループ

学生たちが、たの

しげに食事をして

いる。それらの人

たちの姿をみるこ

とも、たのしいの

である。

カンツリーハウ

ス駅からロープウ

エイで表六甲駅ま

でゆき、この日の

山歩きは終る。



〈その20〉

六甲山人工スキー場

私も滑った夏スキー

犬童 徹〈洋画家〉

六甲山100コース



犬童さん父子と長谷川園長（左）

山に囲まれた熊本の片田舎・湯前に育った私は、子供の頃、年に一度10cm位も雪が降ると、うれしくなって、自分の背丈の竹を火に炙って先を曲げ、即席のスキーを作って友達とスキーの真似ごとをして楽しんでました。それが三十才も過ぎてから、学生と一緒に雪景を描きに信州の野沢スキー場へ行き、そこで一度にスキーの面白さに魅せられ、スキーの虜になってしまいました。計四回も野沢に行きましたが、私のスキーは技術の向上より、むしろ、滑って楽しめば良い方の部類ですからスキーの程度もお分りでしょう。展覧会も終った休日に、晴天に恵まれ、私の長男と編集の方に御同行願ひ、「六甲夏スキー」行きとなりました。車で国道二号線から石屋川を上り、鶴甲団地を通過って有料道路入口へ。そこで、表六甲ドライブウェイを行くつもりが、周辺の新緑、山の美しさに魅せられているうち、道を間違え六甲トンネルへ。

出たところから裏六甲ドライブウェイへぬけ、目ざすスキー場へやっと到着。スキーの前に園長の長谷川さんにお話を伺いました。この人工スキー場は、昭和三十八年に出来て、四十八年からはプラスチックスキーを試験的に試み、五十二年から本格的に営業されているとか。このプラスチックスキーというのは、プラスチックとポリエチレンで作った八の字型のユニットを敷きつめたもので、夏でもこの「雪」の上で滑れるというわけです。冬はこの上に氷を粉にして、スノーガンで巻散らして「雪」を作るそうで、年中滑れるというのは、スキーファンにとっても有難いですね。ゲレンデは幅二十畝、長さ二百畝、斜度十度の初心者用と、幅十畝、長さ二百畝、斜度二十度の中・上級者用の二面があり、夏スキーは四月一日〜十一月いっぱい、冬スキーは十二月中旬〜三月中旬まで。入場料は二百五十円、滑走料千五百円、貸スキーはセットで千五百円。初心者は携帯品として、長袖シャツ、長ズボン、手袋はつき指する事もあり絶対持参してほしいとの事です。雪を求めて日本アルプスに出かける事を思えば、安上りで健康的なレジャーともいえ、愛好者も年々増え、去年の夏スキーは二万人、冬のシーズン暖冬異変という事もあり、十八万人位で昭和三十八年以來の最高だったそうです。お話を伺った後、待ちに待ったスキー。スキー道具一式をお借りしましたが、年々道具も使いやすくなっていますね。編集の人はスキーはベテラン、私の長男は初めてなので、まず、八の字型のボ

ーゲンを教えましたところ、思うようにならぬスキーに、子供もあわれかな、両手、両足がゴム人形を好き勝手に曲げたように、グニャリと地面に倒れてしまいました。それでも、子馬が初めて立つ時の動作を、何回も繰返すうち、なんとか滑ることより立つ事に慣れてきました。あとは後から抱くようにして一緒に滑りましたところ、コツが分ったのか、自分一人で斜面を一直線に滑ってい



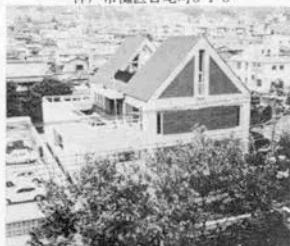
初めはグニャリと地面に倒れても子供はすぐに上達するのです

きました。大人より子供の方が上達が早いですね。私の方は、滑る前、シュテム・ターン、パラレルターン、ステップターンと、教科書通り格好良く滑る事を頭に描いていましたが、滑ってみると、体がいう事を聞かず、両足を揃えて行うパラレルターンがうまく出来ず、なんとも様にならない格好。その側を同行の方が水澄ましの様に、スリースイと滑られるのには、私、梯子段、彼女一級の差が歴然としていました。何回か滑った後、適当に腹も減り、編集者の手弁当を御馳走になりましたが、雲一つない青空の下で、未来のスキーチャンピオンのスキーヤー達を眺めながら食べるサンドイッチとミルクティーの味は、又、格別でした。午後はスキーヤーも増え、混んできましたが、人がぶつかる様子もないところは、皆さんある程度、日頃、楽しんでおられる連中とお見受けしました。中にはグルーブでみえて、先生らしき人が先に滑り、後に続く人達が、次々と、体ごと曲芸の様に、地面に転がっていく様子は、見ていてほほえましい感じでした。プラスノースキー云々は、本格的にやる人の感想で、私が滑った夏スキーは、きわめて良好で、基本的な練習、上級者達の技術の練磨にも最適だと思いました。高い所から斜面を滑るスリルは、何度試みても良いものですが、もつと基本的な技術をマスターして、テレビで見ると格好良く滑りたいものだ、夢は果てしなく続くようです。本当に楽しい一日でした。





六甲キングスアレイ
神戸市灘区日尾町3-1-3



フラワー・ブティック **YOSHIDA**

1 F ☎ (843) 0109 岡本店 ☎ (453) 1640
パーティにプレゼントに花のメッセージを。花を扱うセ
ンスには自信があります。



Coffé e musica **六甲香**

1 F ☎ (822) 1875
ロココと読みます。ロココ調のインテリアに白いピアノ
が。そして自慢のケーキと自家焙煎珈琲をお楽しみくだ
さい。9AM-10PM



ビストロ **シェ・ふじもと**

2 F ☎ (843) 1155 木曜休
藤本二三代の店。パリの小粋なビストロの雰囲気伝わ
ります。平日5PM-1AM、土日祝11AM-11PM。



ブティック **GARBO**

1 F ☎ (822) 0484
子供服、Tシャツ、お人形、くつ、バッグ…夢いっぱい
の手作りのものばかり。お店の奥でいざき君がミシン
をふんでいます。



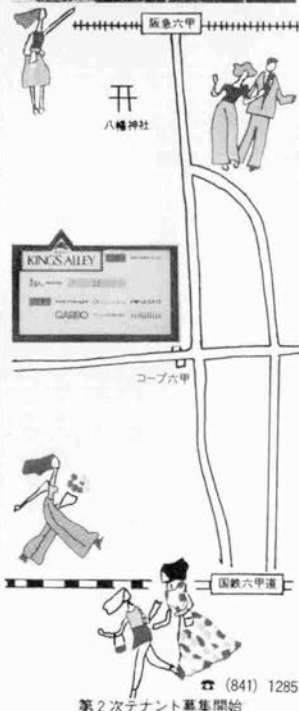
ブティック **フェニクスさとみ**

1 F ☎ (843) 0119
さとみのドレスは。風になびくのです。女っぽく優しく
軽やかに。六甲の風を感じさせるのです。



健康食品 **六甲ヘルスフーズ**

1 F ☎ (821) 5591
美しさは健康から。美容と健康に専任する六甲ヘルスフ
ーズ。お気軽にご相談ください。



☎ (841) 1285
第2次テナント募集開始

● 小山乃里子の

華麗なる食べある記



△15▽うなぎ糸平

△16▽レストラン シーサイドクラブ パレス塩屋

□糸平

★栄養たっぷり うなぎ一筋二十五年

「糸平のうなぎ食べたら、他のうなぎなんて食べられへんよ」と、友達のマヨコサン。

「そうだなあ、一月に二回か三回行くかなあ。得意先を連れてってみんな、うまい、また行こか、いうしな」

銀行マンの三郎サン。

糸平ファンは、かなり熱狂的である。

ただし、と、これまた誰もがいう。

「お腹ペコペコの時行ったら、つらいよ、あの匂いかぎながら待っているとほんまにつらい……」

私もそのつらい思いをたっぷり味わった。朝の番組終ってかけつけて、もちろん朝御飯はいつも食べないから、おなかと背中がひつつきそう。だけど、糸平サンはお客の顔を見てからやおおうなぎを焼き出すから、牛丼のなんとか屋みたいに注文と同時に井が目の前に出てく

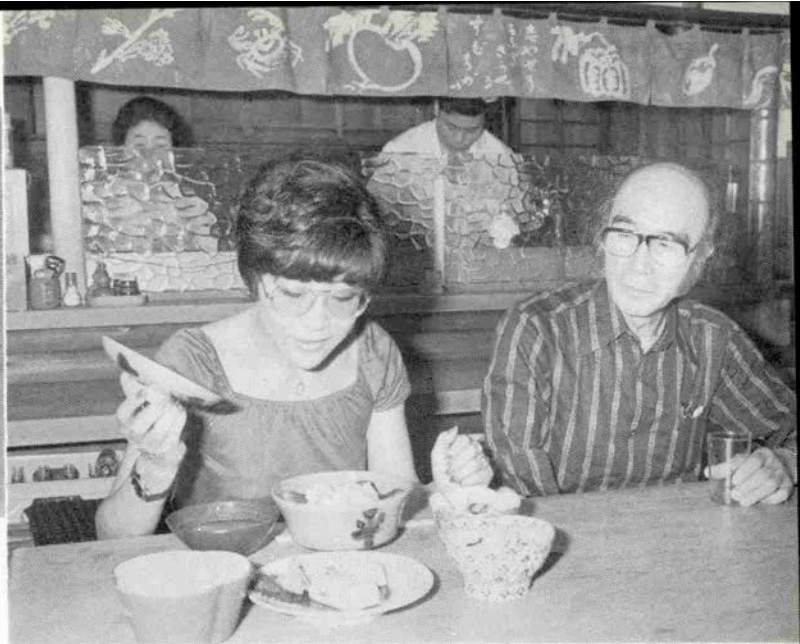
るといわけにはいかない。

紀州の備長炭を使い、この火足が短く火力の強い炭の焼長をうまく生かし、こんがり焼けたようでも焼けないようで、という焼き具合のむずかしさ。白やき百べんという言葉があるように、百べん位も引っくり返して、じわじわと焼くのだそう。 「まむし」というのは、あの蛭からきたのかと思ったら、まま（御飯）でむすからまむしというのだそう。 やつとありついたらうなぎ、きたての御飯の上にほつてりというか、肉付きの良いというか、そのうなぎの三倍もありそうなのが二切れのっかり、その上にまた御飯がちよこつとのもっている。舌にとろけそうな柔らかさ。それでいて舌にまとわりつくようなうなぎ特有のねばっこさも、おいしいなんて言葉じゃ言い表わせない程の味である。うまきはこれまたうまき（なんのこっちゃん）。八幡巻ぎ、口に放りこんだどたんにとけた（ちよつとオーバーかな）。うざく（酔のもの）も、こんなに身のたっぷりついたの知らないなあ。



ヴォリュームたっぷりのうなぎ丼。うまき、うさく、八幡巻などの付出しでちょっと一杯ノもい。

アツアツのご飯にデッカイうなぎ。この丼だけで満腹になってしまいます。ご主人の鎌田糸平さんはなかなかの粋人で、この日ももっぱらファッションの話。



三宮神社東通り、知ってる人しか入って来ない細い通り。昔は神社の中に六十軒程の店があり、コーヒー屋、映画館、小間物屋、エトセトラ。朝から夜通しにぎわったものが、戦争で焼けて、それでもこのあたりが好きだと、うなぎ一筋もう二十五年である。全部で二十人も入れば満パイの小さな店ながら、つとにこの店が名高いのは、うなぎともう一つ、ご主人糸平さんの南画、水墨画の腕前である。海外での個展も数多く、先日もヨーロッパを四十日もまわってこられたとかで、うなぎの話よりも、イタリアのフアッションの話なんか花が咲いたりして、本当に楽しいおじ様である。ただし、お店には糸平さんの絵は一枚もかかっていない。その代り、こんな江戸時代の川柳が……「恋やせにうなぎさかせるすぢちがい」

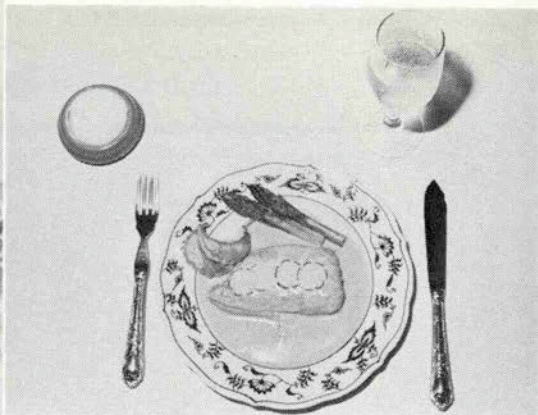
生田区三宮町2 番33117818
営業時間 11時30分〜8時

□ シーサイドクラブ パレス塩屋

★南仏を思わせる海べりのレストラン

私の愛読書の一冊に「海からの贈物」という本がある。

著者は大西洋横断飛行に最初に成功したリンドバーグ大佐の夫人で、彼女が海辺を歩いて目にした風景や、拾った貝がらなどから、女のこと男のこと、結婚とは何か、知性とは何かを書きしるしたものである。その出だしの一筋「浜辺は、本を読んだり、ものを書いたり、考えたりするのにいい場所ではない。温かすぎるし、湿気がありすぎて、本当に頭を働かせたり、精神の飛躍を試みたりするのは、居心地が良すぎる。しかし何度繰り返しても同じことで、やはり浜辺へは、禿げちよろの籠の中に、しなければならぬこと、の表や、本や紙や、もうずっと前に返事を書くはずだった手紙などを一杯詰めて、張り切って出かけていく。そしていつも、読みもしなければ書きませず、ものを考えさせもしない……」



あっさりした味の“ひらめのエビソース”

海のすぐそばで食事が出来るのも神戸ならではのもの。隔差しの強い日でもよし、どんより曇った雨模様の日でもよし、南仏風でとってもロマンチックです。南専務と。

シーサイドクラブの椅子にのんびり坐っていたら、この本を思い出した。実に素敵な雰囲気のレストランであり、そして実に素晴らしい景色である。名前は良く知っていたのに週に一度は須磨まで出かけているのに塩屋まで足をのばす、ということがなぜかおっくうで、今回取材ではじめて行った。だから感激も大きかったのか。

海に向って開かれたテラスから、下をのぞけば、そこだけが細かい砂浜で、海までも、このあたりだけ色を変えているような、そんな錯覚におちいってしまう。地中海に面した、ニース・カンヌをおもわせるたたずまい、といううたい文句が、そのどちらにも行ったことのない私の頭の中にも、すんなり入ってくる。あいにくの雨であった。冬の海、雨の日、そして荒れた日には、ノルマンデーのようです。とかたわらで誰かがつぶやく。ワインを口に運びながら、一瞬ここはどこだろう、とふと思

う。フランスを中心とした9年のヨーロッパ料理修業を終えて、ここで腕をふるう、シェフの山口さんが、今日のメニューを教えてくれる。あっさりした中にもこくのあるスープ、今そこでとって来たような舌ひらめのエビソース。週に一度は海の幸をふんだんに盛り込んだメニューも出る。ディナーは、その名もカンヌコースとニースコース。この雰囲気にすっぽり身を包み、なんと9時間も坐っていた人がいたそう。

食後のコーヒーを飲むなら、ここからほんの数メートルの旧エビラ邸の塩屋異人館倶楽部へ。大きな藤椅子に坐るもよし、海をみながらサンルームにへたり込むもよし、そしてエグロコーヒーを飲みながら、想いにひたるもよし。

私は「海からの贈り物」のように、なあんにも考えることをせず、ただぼんやりしてただけだったけど。

垂水区塩屋町字高尾 電話 753-1373

営業時間 11時〜10時

塩屋異人館倶楽部 垂水区塩屋町小谷267 電話 751-2386

★6月例会

から騒ぎ

作・シェークスピア
「劇団神戸」

劇団神戸が風月堂ホールで定期的に催す“コメディ・ド・フウゲツ”第一回の「から騒ぎ」を見ようというのが六月の例会。観劇というのはK.F.S.の例会では初めてのこと（お芝居見たの初めてと仰っしゃった方もありました！）。出席率は良でありました。

さてお芝居のあと、演出・主演の夏目俊二さんをお招きしてお喋り、という趣向でした。毎度のことながら風月堂のご好意で遅げの夜食をして、夏目さんとお話。

劇見るの初めてという某氏もいれば、実は道化座にいらした時に……（市野木さん）とか、学校の後輩で



夏には喜劇が
よいものです

夏目俊二さんを迎えて

……（渡辺さんとか 兼古さんとか）と内輪バナシが開花。

風月堂ホールで三方を観客に囲まれての芝居というのは劇団神戸も初めてだったそうです。舞台のない新しい形の劇でした。そのあたりの苦心、衣裳のこと、連日立ち見が出る程人気だという程今皆芝居を見たがってるということ、そして、水割片手に～、という芝居の見方など、話はずみしました。

公演後でお疲れだったろう夏目さんには、ここで改めてお礼申し上げます。

第6回夏の総会

●新しい理事が決まりました

7月13日（金）農業会館のブーンで開かれた総会で、55年度の新理事新役員が決まった。会長は6期目中原武志さん。「中原さんはやはりK.F.S.の“顔”だから！」という会員たちの推挙の弁、皆さん今年度もよろしくお願いたします。

- 会長 中原武志
副会長 柿本雅司、大内信行、田中謙司
会計 米田博司、張惠美
理事 荒木雅美、市野木江充子、小笠原明(新)
兼古啓嗣、川瀬弘子、清谷泰夫、小泉美智子、榎雅琴、西条幹男、佐藤良子、中島正義、藤本ハルミ、渡辺三船、若林雄三(新)



●前年度会計報告と今年の予定

クリスマスパーティ、秋の角川春樹、春の立尾長三の二回の公開講座、毎月のマンスリーサロンと去年も活発な活動でした。今年一番の課題は会員名簿の整理です。住所変更などすみやかにお知らせ下さい。

8月マンスリーサロン

8月6日（月）6時半より
六甲オリエンタルホテル
会費/5,000円（会員以外は6,000円）
講師/細川董さん（哲学者）
テーマ/H大学哲学夜話

コメディ・ド・フウゲツ 8月公演

8月23日(木)～
26日(日)

井上ひさし作
「四谷譜談」

6:30 PMより
チケット1,800円
当日2,000円



マンスリーサロン恒例の記念撮影・中央が夏目俊二さん

★神戸の集いから

★望月美佐・中国の華宴

何しろ日本人で初めて中国の北京天安門の壁新聞の壁面に大書してまたまた名を馳せた女流書家の望月美佐女史が、神戸からの文化交流団と共に四月末から半月中国の旅に出て、その帰朝報告会が、六月十五日神戸飯店で約一五〇名が集って開かれた。



チャイナ服姿の望月さんと新井満さん

中国の旅ハミリフィルム上映で美佐女史達の中国文化交流ぶりが紹介され、会場には中国の書家達との交流書展もあり、お食事は北京宮廷料理と中国ムードいっぱいだ。日本ではこのチームでしか京劇上演はムリという華僑の人達による歌劇。父上、林福貴さんのこれが最後という青竜刀の剣舞を子息の林攸樹さんが涙で紹介し、鮮やかに披露した。新井満さんの長恨歌演奏



武田芳一さんを囲んで

は、楊貴妃と玄宗皇帝の大ロマンを唄いあげ、美佐女史の書とともに当日のプログラムの圧巻。中井一夫、土井たか子、竹馬準之助さんら美佐の会のメンバーも揃っての中国華宴だった。

★熱い心の武田芳一

映画「灯をともした人々」の上映から武田芳一さんの「熱い港」出版記念会は始まった。この映画には驚いた。昭和33年に、大正10年の労働争議時の実写フィルムを復元する形で作られた貴重なもので、当時の4万人のデモ（大示威行進）が神戸の街を大迫力で進行する辺りは圧巻。他にもこのノンフィクションを作る上に、唯一の生証人として取材した青垣善郎夫人（92才）も元氣に出席。争議から58年を経た歴史の重みを感じられた。

足立巻一氏は「神戸にいる作家としてこの事件に決する作家がいたことは何よりだと思ふ」とスピーチ。武田芳一さんの「黒い米」「熱い港」と続くこの熱いエネルギーに盛んな拍手が贈られた。富田碎花、小倉敬二、竹中郁、白川渥、落合重信、畑専一郎氏ら約二百名が集った七月七日七夕の夕べ（於兵庫中央労働センター）だった。

★「土佐源氏」に酔い
灘の酒にほろ酔う会

二本のロウソクが揺れるだけの舞台、盲目の老乞食が「色さんげ」を魂の慟哭とともに語る。一人芝居「土佐源氏」を演ずるは島根県出雲市出身の異色俳優、坂本長利さん。6月25日夕刻



坂本長利さん（右）と太田会長
者（微酔い）は名の出席で120の味

由來）気分が帰路へ。灘の酒を愛しその豊かさを揚げようと会を始めた会長の太田耕一さんは「今後も落語会等、楽しい企画を考えています」と張りきっている。微酔の会費351・6996

♥小泉パーティご案内

小泉パーティは結婚を希望する男女にお見合や愛好会によって健全なご交際のお手伝いをいたします。身元の確かなことは良縁の第一条件です。身元の確かな方々の會員制の集いです。

・入会金 10,000円・年会費 10,000円

＜小泉パーティ夏のハイキング＞

日時/8月26日（日）午前8時 山陽電鉄須浦公園駅集合

コース/六甲縦走須磨——轉越コース16.5km
須浦公園——旗振山——高倉台——横尾山——須磨アルプス——荻の寺——高取山——轉越

参加希望者は前日までに申込み下さい
小泉パーティのご案内・入会書類ご希望の方は事務局 平650 生田区北野町3丁目10-2 淡島マンション105号 費078-242-0333 小泉正巳
お問合せ、ご連絡は午前中又は夜間に。

●懐かしのハワイアンサウンド 青春よみがえる アロハコンサート



上 かわいいなー、と会場から思わずため息。芦屋女子短大レイ・イリマ・ハワイアンズ
下 この日のためにバンドを編成。安藤義則とホノルル・スーパー・サウンド

上 バッキー白片
下 エセル中田

かつて神戸商大の学生に、村上一徳という人がいた。彼、イットクさんは、アマチュアのスティールギター奏者であり、ハワイアン音楽のバイオニアであった。そのイットクさんを讀ませて——として、ハワイアン音楽の演奏会「アロハコンサート」が去る6月24日、オリエンタルホテルで開かれた。

▲主催／神戸ハワイアン協会

トップバッターに芦屋女子短大レイ・イリマ・ハワイアンズが登場。当然メンバーはすべて女性。演奏の良さもさることながら、い

きなり会場に花が咲いたよう。続いて学生時代にハワイアン音楽を演奏していたという人たちが編成されたポートアイランドが演奏。トランペットの伊藤隆文さんが加わったりして、ちよつとデキシーランド・ジャズ調。また、この日のためにバンドを編成した安藤義則とホノルル・スーパー・サウンドは、新しいハワイアンサウンドを披露した。

ゲストには、ハワイアン・ファンにとつてなつかしいバッキー白片とアロハ・ハワイアンズ、そしてエセル中田の歌。彼らの演奏に再び青春が戻ってきたような雰囲気、会場は最高潮。

最近では珍しいハワイアンのコンサートに約三百人の聴衆は満足気の様子で閉幕した。